

神谷の正月坂

昭和六十一年一月一日号



神谷・増川・江尾などの愛鷹山の裾野には、源頼朝（もとちか）に関係する地名がいくつか残っています。

今回は、神谷二丁目の長老後藤宇一さんと地元の老人会「楽笑会」の皆さんに教えてください。いただいた地名の話です。

一一九二年、源頼朝は鎌倉幕府を開きました。頼朝は、弓術（きうじゆつ）や馬術（ばじゆつ）などの武芸を重んじ、富士山の裾野で巻き狩り（狩場を四方から取り巻き、けものを囲んで捕える）を行いました。

正月坂

根方街道の神谷二丁目から三ヶ峠ほど登ったところにある地名です。頼朝が巻き狩りにきたとき、ここで正月を過ごしたと言われています。今は山林と茶畑になっています。

研石

正月坂を越えて農道をさらに登ったところの地名です。後藤さんが五十歳ごろまでは、道の東側に三角すいの大きな石がありました。頼朝がここを通ったとき、その石で刀を研いだと伝えられています。

的場平

正月坂の近くで、ここで弓矢の練習をした

といわれます。

びんなで石

増川の北に御殿場上というところがあり、石のそばから清水が湧き出ています。頼朝がこの石に腰をかけて、泉の水でびんのほつれをなでつけたと言われています。



正月坂